

## 第3回浪江町復興検討委員会 議事概要

1. **日時** 平成23年12月2日(金) 13:00～16:15

2. **場所** 安達地方広域行政組合自治センター 3F 第3会議室

### 3. 出席者

#### 【委員】

鈴木浩委員長(第2部会長)、吉岡副委員長(第3部会長)、櫻井委員(第1部会長代理)  
(第1部会)

山本委員、高田委員、今野委員、岸委員、松本委員、泉田委員、櫻井委員、畠山委員  
(第2部会)

高橋委員、稲田委員、佐々木保彦委員、大井委員、原田委員、戸川委員、佐藤博美委員、  
坂委員、松本孝徳委員

(第3部会)

門馬委員、菊池委員、松崎委員、松本茂子委員、半谷委員、橋本委員、難波委員、御代  
委員、上野委員

(欠席)

丹波第1部会長、鈴木充委員、佐藤隆委員、佐々木久雄委員、鈴木市夫委員、叶谷委員、  
石田委員

#### 【事務局等】

馬場町長、谷田企画調整課長、玉川企画調整課主幹

### 4. 議事

(1) 全体会(1)

①委員長あいさつ

②「復興に関する町民アンケート」の中間速報の報告

③「復興ビジョンのたたき台」について説明

(2) 部会審議

①「復興までの道筋」について

②「復興ビジョンのたたき台」について

(3) 全体会(2)

①部会報告

②全体討議

## 5. 議事概要

冒頭、馬場町長からのあいさつを行い、その後、以下の議事が進められた。

### 1. 全体会（1）について

①委員長より、あいさつの後、これまでの委員会の経過について振り返りがなされた。

#### 委員長

- ・浪江町の復興ビジョンの策定にあたっては、今後3年で何ができるかを示すことが重要。
- ・計画の体系化が進むほど、住民の意識との乖離が起きてくる。

②事務局より、資料⑥「復興に関する町民アンケート 中間速報の概要」に基づいて報告がなされた。

#### 事務局

- ・帰還の意思について、「帰りたい」と答えた町民は7割弱だが、アンケート用紙等からも、町民が「帰る」「帰らない（帰れない）」の間で迷っているのが垣間見える。また、「戻らない」と回答した理由についても、「放射線量の低下が期待できない」、「事故が収束しない」等の理由であり、町に愛着がないとの回答は1.7%。「戻らない（戻れない）」と考えている理由の分析が必要。

③資料⑦「第1回有識者会議の結果概要」・⑧「第2回検討委員会 部会討議の結果概要」に基づいて、前回の検討委員会・有識者会議の議論を振り返った後、資料⑤「復興ビジョンのたたき台（以下、「たたき台」）」について事務局より説明。その後、委員長より部会での議論のすすめ方について説明。

#### 委員長

- ・「たたき台」2ページ・5ページの「復興までの道筋」について、表現・内容が事務局案でよいかどうか検討していただきたい。
- ・「たたき台」の施策・取組について、事務局案を見ながら検討していただきたい。

○「復興ビジョンのたたき台」について、質疑。

#### 大井委員

- ・「3年で何が示せるか」と言う時、「3年」には、発災からすでに経過した8ヵ月は含むのか、含まないのか。

#### 事務局

- ・事務局の案では、「たたき台」5ページにもあるが、平成26年3月までを意味するので、発災からの8ヵ月も含めて3年である。

### 2. 部会審議について

3部会に分かれ、以下の2点について議論。

①事務局より提示した「復興への道筋」を基に、直近・短期・中期・長期における、浪江町

のあるべき将来像を想定し、部会内で共有しながら「復興への道筋」に関する議論を深め、共通認識をつくる。

- ②その後、事務局で提示した「たたき台」のうち、各部会で担当している施策・取組について、事前に御提出いただいた課題を参照しながら、「復興ビジョン」の施策・取組内容のあるべき姿を議論。

### 3. 全体会(2)について

- ①各部会長より、部会での議論の内容を報告。内容は以下のとおり。

#### (第1部会) 担当施策：「絆」を深め、なみえの心を未来につなごう」

- 「復興の道筋」について
  - ・概ね原案の流れで良いのではないかと。
  - ・除染やインフラ復旧について、直近の目標では「着実に進める」と書いてあり、短期目標では「大幅に進展」と書いてあるが、本当にインフラ復旧・除染は進むのか疑問。記載自体はこのままでよいが、裏付けとなる事実の記載が必要。
- 「復興ビジョンのたたき台」の施策・取り組み内容について
  - ・県外避難者の定期的な町民の交流の場が必要。年1回くらいは全町民に呼びかけ、伝統文化・お祭り等を披露して、交流する機会をつくるべきではないか。さらに、自分の考えや意見を言える場、主権者としての権利を行使できる、町民として、町へのこだわりができるような場を作る必要がある。
  - ・甲状腺検査を地域単位にすればよいのではないかと。交流の場にもなる。
  - ・浪江町から情報を発信する必要がある。特に、県外避難者については避難先自治体から復興・浪江についての情報は一切来ない。現在は月1回の広報のみ。
  - ・行政区長としての役割を明確化する必要がある。改選期に震災があり、その後、行政区は任意団体され、総会も開催できず、新しい区長も選べていない。役割があいまいなままになっている。「たたき台」の16ページにも「行政区での絆づくり」が謳われている。行政区や区長の立場を明確にする必要がある。

#### (第2部会) 担当施策：“安全・安心な暮らしを取り戻そう”

- 「復興の道筋」について
  - ・過酷な状況の中で、3年で何ができるかが決め手になる。部会での議論は強烈だった。「3年で何ができるか？」ではなく、「3年でここまでやらなくてはいけない」ということを示して欲しいという意見。避難者の気持ちの中でも、「戻る」と「戻らない(戻れない)」の間で、せめぎ合いが起きはじめている。「3年で何をすべきか」ということも示す必要がある。
- 「復興ビジョンのたたき台」の施策・取り組み内容について
  - ・浪江町の中でも放射性物質の汚染度には地域ごとの差がある。除染については、土地利用の分布、地形上の特質を考慮して、メリハリを付けることが必要。

- ・浪江町は放射性物質の汚染度が高く、また114号線に沿って避難した。浪江町は健康管理・放射線管理について特別に考える必要がある。
- ・復興ビジョンについては、町民が「町役場がやるもの」という意識になり、町民の立場から遠いものになっていくのではないかと。町民が当事者意識を持つようなつながり方、関わり方が必要。地元の住民や企業等と一緒に取り組んでいけるような仕掛け・プラットフォームが必要。

#### 和田委員代理

- ・健康管理の問題については、ビジョンの問題ではなく、今の問題。健康管理・放射線管理については、別の次元で提言すべき。

### (第3部会) 担当：「震災前より暮らしやすい、元気な町を実現しよう」

- 「復興の道筋」について
  - ・直近の目標として、「除染やインフラ復旧を着実に進めます。」とあるが、今年度中では「進めます」とまでは言えないのではないかと。「着手しています」くらいが適切ではないかと。
  - ・中期目標として、「賠償の働きかけ」が記載してあるが、賠償の話は中期に限らないので、不要ではないかと。
  - ・イラスト・イメージ図等、わかりやすい表現が必要。
- 「復興ビジョンのたたき台」の施策・取り組み内容について  
(みんなが健康で暮らすまちづくり)
  - ・「継続的な健康調査の実施」の箇所に、「健康のための運動・体操の実施」を書き込んだらよいのではないかと。
  - ・「正しい食生活・栄養補給」も盛り込む必要がある。
  - ・「総合検診の拡大」については、「健診で得られたデータの管理」を盛り込むべき。
  - ・「心の健康維持」の項で、「絆事業実施」の用語解説が必要。
  - ・健康診断を避難先で受けられることを知らなかった。情報提供して欲しい。
 (産業の復興と創造)
  - ・大垣ダムの被害状況・復旧について記載すべきではないかと。
  - ・風評被害について、安全が確保されなければ、自家消費・市場出荷させないことが必要ではないかと。
  - ・「きずなファーム」の用語解説が必要。
  - ・請戸漁協への支援に言及する必要がある。
  - ・山林の除染については、もっと踏み込んだ記載をすべき。
  - ・県内避難に限らず、避難している全ての中小企業の支援が必要ではないかと。
  - ・「コミュニティビジネス」のような身近なビジネスについての記載盛り込み、取り組み開始時期の見直しが必要ではないかと。
  - ・再生可能エネルギーは、直近から検討を進めるべき。
  - ・観光についても、浪江ブランドを守るという点から、直近から検討を進めるべき。

- ・「町づくり会社」の立ち上げについて記載すべき。
- ・交通の便の改善についても記載が必要。

## ②全体討議では、以下のような内容が話し合われた。

### 中村委員

- ・3年で戻るまでの避難先のありかたについて考えると、どこかで避難期に「2地区居住」をすることを真剣に検討することが必要。
- ・「2地区居住」の意味するところは、避難者を全て集約して新しくコミュニティをつくる、という意味ではなく、各避難者にとって、自宅以外の場所に居住地を構える、ということ。既存の市街地の空洞化したところに入り、その地域の人と共に暮らしながら、浪江にアクセスするためのインフラを整備して、浪江との間を往復するようなイメージ。

### 今野委員

- ・「たたき台」9ページの「質の高い公営住宅」の記載を充実させるべきではないか。

### 委員長

- ・福島県の場合、仮設住宅を買い上げにしているのが特徴。住民に払い下げたり、あるいは復興公営住宅を建てて、ある程度避難者を集めるなど、避難期の住居について、次の展開を考える必要がある。
- ・ビジョンはもう少し骨太でよいのではないか。復興のあり方、理念・ビジョンをもう少しわかりやすく、パンチ力のあるかたちで打ち出すことが必要ではないか。事務局と検討する。

### 山本委員

- ・事故はまだ収束していない。検討委員会の名の下に、政府、東京電力にきっちりと要望すべき。

## 6. その他

第4回は平成23年12月16日(金)13:00からの開催を予定。

以上  
(速報のため、事後修正の可能性あり)